HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『日本中央アジア学会報』投稿規定・執筆要領
Citation	日本中央アジア学会報, 14, 73-78
Issue Date	2018-07-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88340
Type	other
File Information	JB014_016guidelines.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

『日本中央アジア学会報』投稿規定

1. 投稿者は、原則として日本中央アジア学会の会員に限ります。
2. 原稿は、過去に他の学術誌･書籍等に掲載されたことのないもの、投稿時点で他の学術誌･書籍等に投稿中・寄稿中でないものに限ります。
3. 原稿の使用言語は原則として日本語とします。
4. 投稿に際しては、完成原稿を MS-Word 形式で作成し、電子メール添付にて送付してください。手書き原稿は受け取りません。
5. 原稿の送付先は下記の通りです。

   E-mail: jacaseditor@gmail.com

   日本中央アジア学会編集委員会
6. 原稿の種別は、「論説」、「研究ノート」、「書評」、「中央アジア研究動向」、「中央アジア現地事情」、「年次大会発表要旨」からなります。投稿者は、掲載を希望する種別を明記のうえで投稿してください。ただし、掲載される際の種別に関する最終的な判断は、本学会編集委員会が行います。
7. 原稿の分量は、種別ごとに、1枚400字換算にてそれぞれ、「論説」と「研究ノート」: 60枚以内、「書評」: 20枚以内、「中央アジア研究動向」と「中央アジア現地事情」: 15枚以内、「年次大会発表要旨」: 5 枚以内、とします。なお、上記の枚数には、本文のほかに、表題、注、参考文献、図表等も含まれます。
8. 原稿の書式については、執筆要領を参照してください。
9. 原稿の締め切りは、「論説」、「研究ノート」、「書評」について1月10日とし、「年次大会発表要旨」については4月20日とします。他の原稿については2月28日とします。
10. 投稿された原稿の採否は、編集委員会において決定します。「論説」、「研究ノート」、「書評」の原稿については、審査を行なった上で、編集委員会が最終的な採否の決定を行ないます。掲載が決定された場合でも、編集委員会より手直しを求めることがあります。
11. 投稿された原稿は返却しません。
12. 校正は、初校についてのみ著者校正をお願いします。その際、大幅な修正や加筆はご遠慮ください。再校以降の校正は、編集委員会の責任で行ないます。
13. 本誌に発表したものを転載する場合は、予め編集委員会に通知した上で、『日本中央アジア学会報』に掲載されたものである旨を記載してください。また、転載された出版物の

発行後、速やかに本学会事務局宛てに 1 部寄贈をお願いします。なお、刊行後の 1 年間は、ウェブページを含め、転載をご遠慮願います。

14. 編集委員会は、本誌に掲載されたすべての原稿について、電子化された媒体により複製・公開し、公衆に送信することができるものとします。

（2017 年 6 月 21 日改訂、2017 年 12 月 1 日メールアドレス変更）

『日本中央アジア学会報』執筆要領

1．原稿の形式・体裁

(1) 表紙に、原稿の種別（「論説」、「研究ノート」など）、表題、英文タイトル、要旨（800字以内）、執筆者名、所属・職位等、および連絡先（郵便番号、住所、電話番号、メール・アドレス）を記す。

(2) A4判とし、余白は天地30ミリ、左右25ミリとする。

(3) 原稿は横書きとし、1行の文字数は41字、1ページの行数は32行に設定する。

(4) フォントについては、和文はMS明朝、英文はTimes New Romanを用いる。アラビア文字等のローマ字転写を示す際は、Times New Romanで表示できる文字については必ずTimes New Romanを用い、表示できないものについてのみ特殊フォントを使う。特殊フォントを使用する場合は、原稿のファイルをメール添付で送付する際に、あわせて原稿のPDFファイル（特殊フォント部分をマーカーで示すこと）も添付する。フォントの文字サイズは、10.5ポイントとする。アラビア数字（算用数字）はすべて半角とする。

(5) 数字は原則としてアラビア数字（算用数字）を用いる。ただし、本文中ではコンマを用いない。万以上の数字については、万・億・兆などの漢数字を用いることもできる。概数の場合は、十数年、数十人などとする。

(6) 読点は「、」、句点は「。」を用いる。

(7) 引用文を提示する際は、引用部分の行の始まりをすべて2字下げるとともに、引用部分の上下を半行空ける。

(8) 日本語以外の諸言語の文字については、原則として、漢字、ローマ字、キリル文字以外の文字を使用しない。漢字は原則として日本の常用漢字を使用する。ただし、固有名詞の表示や漢文文献の引用など、必要な場合はこの限りでない。アラビア文字等についてはローマ字による転写を用いる。ローマ字転写の方式は、基本的に国内外で採用されている標準的な方式にしたがい、原稿内で方式を統一する。

(9) 注は脚注とし、1からはじまる通し番号とする。原稿ファイルにおいて、MS-Wordの脚注機能を用いて作成する。

(10) 出典を示す参考文献とページ番号のみの注は設けない。下記３.で示すような形式にしたがって本文内に入れる。

(11) 原稿末に参考文献リストを置き、参考文献を示す。具体的な様式等については下記の２.を参照。

(12) 図版は、執筆者が完全版下となるデータを提供する。図版には通し番号を付し、本文中に挿入希望箇所を表示する。また、別紙に各図版の説明（キャプション）を記す。図

版のデータについては、必ずファイル名に図版の通し番号を入れ、原稿のファイルを送付する際に、画像データも合わせてメール添付で送付する。後者のファイルは BMP 形式が望ましい。

2．参考文献リストの様式

(1) 参考文献リストにおける文献の配列は、著者の姓のアルファベット順とする。単著・編著の区別は、配列順に関係しない。同一著者の複数の文献を掲げる場合は、出版年の古い順に並べる。同一著者の文献が同一年に複数ある場合は、タイトルのアルファベット順に、刊行年に a、b、c などを付加して区別する。なお、文献の言語別に分けて表示する方法を採ってもよい。

(2) 同じ著（編）者の文献が複数ある場合、2 番目以下の文献の著（編）者名部分を――（3 倍ダッシ）で表記する。

(3) 史料等について任意の略号を使用する場合は、参考文献リストにそれを示し、原稿内で統一的に用いる。

(4) 参考文献リストにおける書誌データの具体的な記載方法については、基本的に下記にしたがう。

①単行本

和文：著（編）者名、出版年、書名、出版地、出版社、の順に記す。

欧文：著（編）者名（姓 , 名の順）、出版年、書名（イタリック体）、出版地、出版社の順に記す。

（例）

佐口透 1986『新疆民族史研究』東京：吉川弘文館。

Jarring, Gunnar. 1991. *Prints from Kashgar: The Printing Office of the Swedish Mission in Eastern Turkestan, History and Production with an Attempt at a Bibliography*, Stockholm: Svensca Forskningsinstitutet i İstanbul.

②学術誌掲載論文等

和文：著者名、発行年、論文名、雑誌名、巻号、掲載ページ、の順に記す。

欧文：著者名（姓 , 名の順）、論文名、雑誌名（イタリック体）、巻号、掲載ページ、の順に記す。

（例）

佐口透 1950「新疆ウイグル社会の農業問題――1760–1820 年――」『史学雑誌』59(12)、22–50 頁。

Fletcher, Joseph F. 1982. “The Biography of Khwush Kipäk Beg (d.1781) in the Waifan Meng-ku Hui-pu wang kung piao chuan,” *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 36, pp. 167–172.

③論文集等掲載論文

和文：著者名、出版年、論文名、編者、書名、出版地、出版社、掲載ページ、の順に記す。

欧文：著者名（姓 , 名の順）、論文名、編者名、著書名（イタリック体）、出版地、出版社、掲載ページ、の順で記す。

（例）

羽田明 1964「Ghazāt-i-Müslimin 訳稿 ── Ya'qūb-bäg 反乱の一史料 ──」内陸アジア史学会編『内陸アジア史論集』東京：株式会社大安、324–339 頁。

Togan, Isenbike. 1992. "Islam in a Changing Society: The Khojas of Eastern Turkestan," in *Muslims in Central Asia: Expressions of Identity and Change*, edited by Jo-Ann Gross, Durham and London: Duke University Press, pp. 134–148.

④史料等に略号を使用する場合

略号、コロン（:）を挟んで書誌データを記す。

（例）

新疆図志：『新疆圖志』百十六巻、袁大化修、（清）王樹枏等撰、東方學會據志局本重校正増補、天津博愛印刷局印行、民国 12 年。

TN: (Mullā Sharaf al-Dīn A'lam ibn Nūr al-Dīn), *Tārīkh-nām* (*Tārīkh-i Rāqim*), ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所所蔵・写本番号 : r. 10190.

3．本文・注における文献の表記

（1）本文もしくは注において参考文献に言及する際には、著（編）者姓、出版年、ページを表示し、括弧［　］内に入れる。ページ番号は、出版年の後に半角コロン（:）を挟んで示す。

（2）同一文献に関して複数回の言及がある場合、前掲書、前掲論文、同上書、同上論文、op. cit.、ibid.、等の語は使用しない。

（3）具体的な表記の方法については下記の形式にしたがう。

（a）文の冒頭で言及する場合

佐口［1986: 173–174］は……

Jarring［1991: 85］によれば、……

ジャリロフ・河原・澤田・新免・堀［2008: 9］は……

羽田［1982: 80–81］、佐口［1963: 109–110］によれば……

（b）文中または文末で言及する場合

……という指摘もあり［佐口 1986: 173–174］、本稿では……

……と指摘されている［羽田 1986: 86–87］。

……と指摘されている［Jarring 1991: 85］。

……という記述がある［TN: 122b–123a］。

……とされている［ジャリロフ・河原・澤田・新免・堀 2008: 9］。

……と論じられている［羽田 1982: 80–81; 佐口 1963: 109–110］。

……といわれる［羽田 1982: 80–81; 1986: 109–110］。

（4）インターネット取得のデータを用いる際には、脚注に、記事等の題目、サイト名、URL アドレス、閲覧年月日を記す。

（例）

“Strategy of Innovative Industrial Development of Kazakhstan for 2003–2015,” URL: http://en.government.kz/resources/docs/doc3, 閲覧日：2009年 6月 18日。

（2017年 6月 21日改訂）